
枚方市駅周辺整備基本構想

平成16年（2004年）11月
枚方市

目 次

1 . 目的	-----	1
2 . 現状と課題	-----	1
3 . 基本方針	-----	2
(1) 都市格づくり	-----	2
(2) にぎわいづくり	-----	2
(3) 回遊性づくり	-----	3
4 . 基本構想	-----	4
(1) 基本的な考え方	-----	4
ふれあい軸	-----	5
歴史街道軸	-----	5
水辺軸	-----	6
総合的な連携	-----	7
(図 2) まちづくりのための 3 つの軸	-----	8
(2) 構想	-----	9
ふれあい軸の形成	-----	9
歴史街道軸の形成	-----	11
水辺軸の形成	-----	12
総合連携事業	-----	13
5 . 構想の整備スケジュール	-----	14
(図 3) 基本構想図	-----	15
(表 1) 整備プログラム	-----	16

1 . 目的

枚方市駅周辺地域は、本市の中心市街地であり広域拠点の形成に向け、枚方市の「顔」として都市的魅力と文化性に富む風格あるまちなみ形成が求められています。

本整備基本構想は、枚方市駅周辺地域において展開する各種事業の連携を容易にし、本地域を取巻く課題や将来的な土地利用の目標・方向性を市民、事業者、行政が共有するために作成するものです。

2 . 現状と課題

本地域は、北西側は淀川に面し、東側は天野川そして南側は枚方丘陵が淀川へせり出し、崖状となっています。江戸時代には、この地に東海道（京街道）の宿場町として枚方宿が設けられ、紀州の大名が参勤交代の休泊などに利用する本陣のほか多数の旅籠屋が並んでいました。また、淀川は、古来より人や物資の重要な交通路として利用され、江戸時代には三十石船が往来し、本地域はその中継港としても栄え、三十石船の乗客に飲食物を売る「くらわんか舟」が名物となっていました。

明治に入って枚方郡役所や枚方町役場が置かれるなど、旧枚方宿周辺が行政の中心となり、一方で蒸気船が新たに就航するなど淀川舟運も活況を呈しました。

その後、京阪電車の開通、道路網の発達により、淀川舟運は衰退します。また、市役所や官公庁団地の整備、大規模商業施設の立地などにより、まちの様相も大きく変わりました。

現在、枚方市駅は40万都市枚方の中心駅として日に約9万人が乗降している府下でも有数の乗降客数を誇る駅ですが、駅周辺はそのにぎわいを感じられない状況です。

また、かつての宿場町も歴史的な建築物が減り、その面影も薄れています。淀川舟運も、国土交通省によって整備された緊急用船着場があるものの、土砂運搬船や観光船がイベント時に航行するにとどまっています。

一方、国土交通省によって、船溜まりの整備や航路の確保が予定・検討されており、淀川舟運の再生の期待が高まっています。河川に面した部分では、関西医科大学付属病院の建設が進められ、総合文化施設整備を予定しており、それに伴い市民会館大ホールの跡地の活用などを検討します。また、大阪府住宅供給公社枚方団地の建替えなどの予定もあり、さらに、歴史街道としての枚方宿の再生に向けて、鍵屋資料館の運営、修景事業やサイン整備なども進めています。

都市計画マスタープランにおいては、周辺都市も含めた枚方都市圏を対象とした広域拠点を枚方市駅周辺に形成することとしており、こうしたことを踏まえて、京阪奈の中心都市にふさわしい質の高いまちづくりが求められています。

3 . 基本方針

本地域の現状と課題を踏まえ、京阪奈の中心都市にふさわしい質の高いまちづくりを目指し、このエリアの持つ自然、文化、歴史を感じながら、人々が集い、交流できる拠点形成を目指し、まちづくりのコンセプトとして、

『歴史と文化が薫る、川に開かれたまち』 とします。

これを目指し、枚方の新しい都市格（都市の個性・品格）を形成し、40万都市の中心としてのにぎわい、歴史や文化を感じられる回遊性を創出します。

（1）都市格づくり

枚方は、淀川舟運の中継地として、また、東海道（京街道）の宿場町として栄えてきました。しかしながら、公共交通機関やモーターレーゼーションの発展のなかで、舟運や宿場町の役割が少なくなり、大阪と京都の中間にある40万都市の中心でありながら、大阪や京都へ向かうための単なる通過点的な場となっており、都市としての個性が希薄になっています。

一方、現在は、物質的・経済的な豊かさや便利さだけでなく、自然や歴史的な建物のなかでゆったりと過ごすことなど、心の豊かさが求められています。

そこで、我が国有数の大河川である「淀川」が近くを流れる地理的条件とともに、行政機能の集積を生かしつつ舟運の再生を図り、川に向かって開かれたまちづくりを進めるとともに、歴史街道を再生することによって、歴史や文化がまちから薫るような品格のあるまちを形成します。

（2）にぎわいづくり

本地域は、市街地再開発事業などによって大規模商業施設が集積し、また、官公庁団地が整備されましたが、現在では40万都市の中心でありながら、この集積を十分に生かしていない状態です。また、駅周辺をはじめ、歴史街道やひらかた水辺公園（国営公園淀川河川公園枚方地区）においても、人を惹きつけるための魅力や仕掛けに欠けています。さらに、定住人口は減少傾向にあり、全市的にみて高齢化も進んでいます。

しかし、本市には6つの大学があり、多くの学生や若者が枚方市駅を利用している現状もあります。

そこで、駅周辺の既存再開発ビルをはじめとする商業施設等の活性化を図り、魅力的な商業・娯楽施設等が進出しようと思える施策を進め、本地域の都市像（まちづくりのコンセプト）と調和した人を惹きつける施設や目的を持って集まる施設、交流できる施設の立地等を促進します。また、人々がふと足を止めてくつろいだり、街並みやパフォーマンスを楽しめるようなまちづくりを進めます。さらに、歴史街道の再生に取り組んでおり、ここに住みたい、住み続けたいと思われるような居住環境づくりも進めます。

(3) 回遊性づくり

本地域には、歴史街道があり、その再生の取り組みが進められていますが、歴史的な建物などは点在している状態であり、歩くことが楽しめる環境には十分ではありません。また、ひらかた水辺公園、淀川、天野川、ひらかたパーク、大規模商業施設などの資源がありますが、それらを結んで楽しんで歩ける環境も十分ではありません。

また、歴史街道にも京都守口線の渋滞を避ける車両が流れ込み、枚方市駅周辺の道路も慢性的に混雑しています。特に駅南側の広場にあつては香里団地方面、藤阪・長尾方面、津田・尊延寺方面と多方面からの車両交通が集中しており、枚方市駅の高架化に伴い駅北側とも連絡したため、通過交通が駅前広場に入り込んで歩き易さの障害にもなり、人が駅周辺にとどまれないひとつの要因になっています。

もとより道路空間は、建物と建物との単なる移動のためだけの空間ではなく、人と人が出会い、ふれあい、そして、まちへの愛着を共有しあう大切な場所です。こうした場所を魅力あるものとするため、道路だけでなく道路に面した建物も「みち」としてとらえ、「みち」を創っていくことが「まち」を創っていくものと考えます。

そこで、まず、歴史街道や駅周辺への通過交通等を抑制するため、幹線道路の強化や交差点処理、駐車場の活用、放置自転車対策等を図り、「みち」を安心して歩くことができるような施策を展開します。さらに、ユニバーサルデザインを念頭におきながら段差の解消等のバリアフリー化を進めるなど、歩くことが楽しめるように、「みち」の魅力を高め、都市格を形成するため、連続性のある景観形成や休憩できる場の確保を図り、魅力ある商業施設などの立地を促進します。また、自転車で移動しやすい環境を創ることにより、回遊性の拡大を図ります。

4 . 基本構想

(1) 基本的な考え方

基本方針の「都市格」「にぎわい」「回遊性」をつくっていくために、まず、駅を中心に歩行者が自由に歩ける空間、歩いて楽しめるまちをつくる必要があります。そのため、駅周辺地域に通過交通が混入しないように、外縁部で通過交通を処理する必要があります。

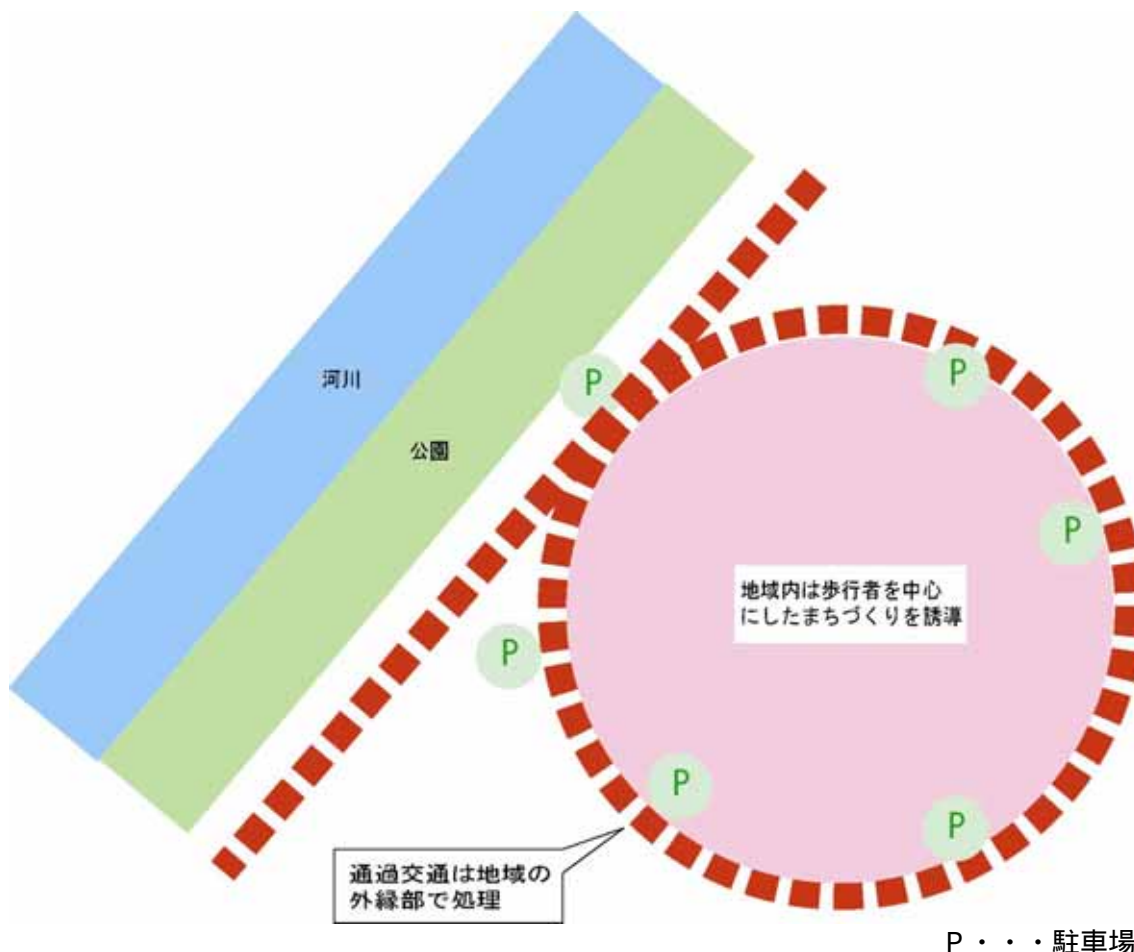


図1 歩いて楽しめるまちづくりのイメージ

また、本地域の「みち」が個性を発揮し、結びつくように、「ふれあい軸」「歴史街道軸」「水辺軸」という3つの軸を設定し、この軸の形成と連携をもとにメリハリのあるまちづくりを進めていきます。(P8 図2 まちづくりのための3つの軸 参照)

「ふれあい軸」は、市役所周辺から枚方市駅を通り、総合文化施設や関西医科大学付属病院およびひらかた水辺公園につながる軸とします。「歴史街道軸」は、かつての東海道(京街道)に沿った軸で、天野川付近から水面回廊付近までとします。「水辺軸」は、淀川舟運の航路を含めたひらかた水辺公園をひとつの軸とします。

ふれあい軸

ふれあい軸の中心でもあり、歴史街道軸と交流する場でもある枚方市駅は約 9 万人が乗降し、この駅周辺が 40 万都市の中心的な役割を担っていますが、現時点では、そのようなにぎわいが感じられない状況です。また、すぐそばに淀川、ひらかた水辺公園、歴史街道、天野川という都市格をつくるための大切な資源がありながら、駅周辺で感じるできない状況です。また、市役所周辺は官公庁団地を形成しており、岡東中央公園付近のにぎわいはありますが、そのにぎわいが駅周辺にまでつながっていません。

しかし、現在、関西医科大学付属病院の建設が進んでおり、今後も、総合文化施設の整備とそれに伴い新庁舎及びその周辺整備の計画を進め、さらには、大阪府住宅供給公社枚方団地の建て替えなどが予定されています。また、集客・交流施設としての都市型ホテルの整備が望まれています。

そこで、こうした動きを連携させて、淀川やひらかた水辺公園という資源が感じられる「川に向かって開かれたまち」という新しい都市格を創出し、人が集まり、にぎわいを生む環境を形成します。



ふれあい通り



枚方市駅北口

歴史街道軸

歴史街道は、かつて東海道（京街道）の宿場町として、紀州の大名の参勤交代の休泊などに利用する本陣のほか多数の旅籠屋が並んでいましたが、現在では、歴史的な建築物は減り、その面影も薄れています。

しかしながら、残されている歴史的な建築物や石碑、そしてそれらを含む「みち」は、過去と現在を結びつけ、それに触れる人々に精神的な豊かさやうるおいを提供し、そこに住む人々にとっての象徴や精神的な基盤となり、まちに品格を与えます。また、こうした資源を活用することによって、地域の魅力を高め、にぎわいを創出します。

現在、歴史街道の再生に向けて、町家の修景助成制度や案内サインの整備などの街なみ環境整備事業やコミュニティゾーン形成事業を進めています。また、かつての船宿である鍵屋を「鍵屋資料館」として保全・整備し、歴史を感じられる場として活用しています。

そこで、こうした取り組みを拡充するとともに、シンボルとなる施設や憩える場の整備を進め、歴史や文化を身近に感じられ、ゆったりと歩いて楽しめるまちを形成し、居住環境の

改善を進めます。



鍵屋資料館



くらわんかギャラリー

水辺軸

本地域には我が国有数の大河川である淀川が接するという特性を有しており、ひらかた水辺公園が整備されています。この公園には、広大な芝生をはじめ、淀川スタジアム、アクアシアター、淀川流域自然園、多自然池、緊急用船着場などが整備された広大な公園であり、中心市街地から至近距離にありながら、人がまばらな状況です。

しかしながら、国土交通省によって、船溜まりの整備や大阪・京都方面への航路確保が検討されており、淀川舟運の再生の期待が高まっています。また、関西医科大学付属病院や総合文化施設の立地をはじめとする「ふれあい軸」の整備と「歴史街道軸」の整備が進むと、この二つの軸と連携することによって、大きな回遊ルートを形成することが可能となります。

そこで、本地域に接している淀川を、まちの魅力、都市格の創出に生かすため、淀川とそれと一体となったひらかた水辺公園を「水辺軸」とします。この軸は大きく分けて二つの要素があります。ひとつは大阪から枚方を経由して京都へ通じる舟運の拠点となることと、もうひとつはひらかた水辺公園全体をひとつの軸として、歴史街道、ふれあい軸とともに枚方市駅周辺の回遊ルートを形成することです。この軸を形成することにより、本地域を40万都市の中心でありながら、豊かな自然とふれあえ、川を楽しめ、まちに癒しとうるおいを提供する場にします。



ひらかた水辺公園

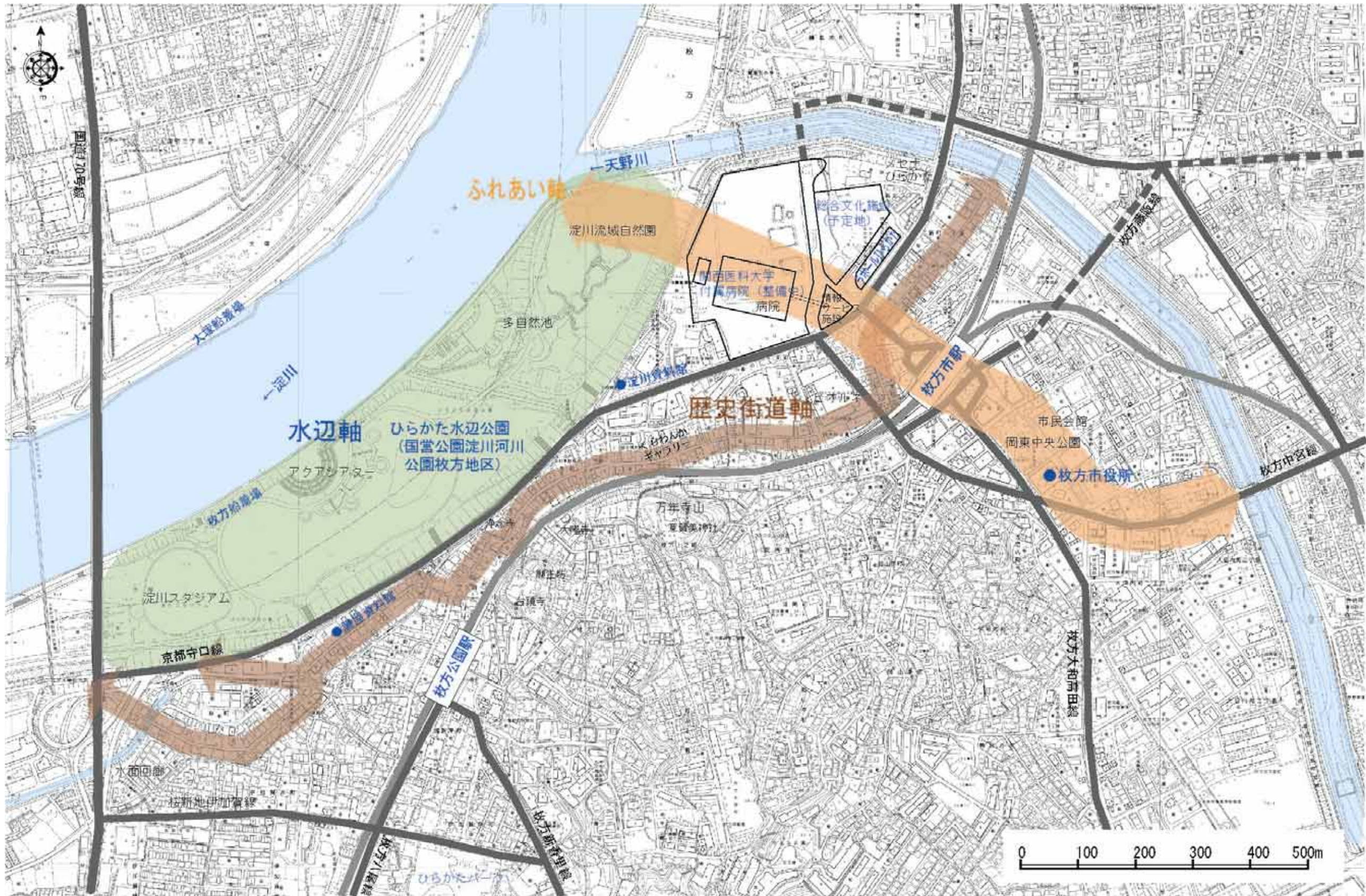


淀川流域自然園

総合的な連携

枚方の新しい都市格として『歴史と文化が薫る、川に開かれたまち』を形成するために、「ふれあい軸」、「歴史街道軸」、「水辺軸」の3つの軸をもとにしてまちづくりを進めるだけでなく、これらが連携し、相乗効果を発揮できるような、全体像を設定するとともに、軸と軸の多様な結びつきを意図したまちづくりを進めます。

図2 まちづくりのための3つの軸



(2) 構想

「歴史と文化が薫る、川に開かれたまち」を目指して、3つの軸の形成および連携のための構想を示します。

ふれあい軸の形成

枚方市駅北口周辺（基本構想図内 17,21,22,23,26,28 の番号参照）

現在、枚方市駅北口はバスをはじめとする車両のためのロータリーが中心を占め、多様な飲食店等が入居するビルが取り囲んでおり、落ち着きやうるおいに欠けています。また、近くに淀川や天野川が流れ、歴史街道が通っていますが、こうした資源が身近にあると感じられない状態です。

そこで、枚方市駅北口から京都守口線までの枚方市駅前線において、水辺を感じ、歩いて癒される「みち」や空間をつくります。また、枚方市駅北口から南西への歴史街道につながる道路については、枚方市駅から歴史街道へいざなう「みち」をつくります。さらに、本市には多くの人が交流できる場、フォーマルに集まれる場が不足しており、歴史街道を生かした全国的なイベントなどの開催も困難な状況です。そこで、都市型ホテルの誘致に向け、アクセス道路の整備など、条件整備を図ります。

一方、この駅前広場の北東に隣接する大阪府住宅供給公社枚方団地が建替えの予定があり、この建替えに合わせ、駅前広場と一体となったくつろげる空間をつくり、駅と川やホテルなどとのつながりを深めます。

また、京都守口線を挟んでラポールひらかたの向かいにある市所有地においては、枚方市駅周辺の交通機能の充実や歴史街道にふさわしい施設を整備します。

こうした整備と連携しながら、枚方市駅北口の駅前広場の拡充を図ります。



川に面する施設（基本構想図内 1,4,27 の番号参照）

総合文化施設、関西医科大学付属病院などは、枚方市駅から淀川およびひらかた水辺公園へいざなう重要な位置にあり、「ふれあい軸」と「水辺軸」を結ぶ場でもあります。

そこで、川と調和した環境デザインを導入し、川に開かれた市民文化の拠点をつくり、関西医科大学付属病院の協力を得て、川に向かって開かれたまちづくりをします。また、枚方市駅から連続して川を感じられる空間をつくっていきます。



枚方市駅南口周辺（基本構想図内 19 の番号参照）



枚方市駅南口は、岡東中央公園や市庁舎周辺までデッキが伸びており、多くの人々が利用しています。しかしながら、駅前広場には、香里団地方面、藤阪・長尾方面、津田・尊延寺方面と多方面からの車両交通が集中しており、枚方市駅の高架化に伴って駅北側とも連絡したため、通過交通が駅前広場に入り込み、人がゆったりと歩ける雰囲気ではなく、人が溜まる場が不足しています。

そこで、人が溜まれる場を生むため、三越百貨店と鉄道にはさまれた道路において、歩行者がくつろぎ、楽しめる「みち」をつくります。

市庁舎周辺（基本構想図内 20 の番号参照）

総合文化施設の整備によって、ホール機能が充実するため、老朽化が進んでいる現在の市民会館大ホール等を廃止し、その跡地を含め、民間の活力なども活用しながら、庁舎の建て替え、岡東中央公園、ふれあい通り（枚方市役所前線）と一体となった新しいにぎわいを創出します。



枚方藤阪線（基本構想図内 24 の番号参照）



枚方市駅周辺の歩行者の交通機能を充実するため、枚方藤阪線における未整備区域の整備を促進します。また、枚方市駅南口への通過交通の進入を抑制するため、西禁野交差点処理によって、車両交通を京都守口線に誘導します。

天野川周辺（基本構想図内 25 の番号参照）

本地域には我が国有数の大河川である淀川とともに、一級河川天野川も接しています。天野川は淀川と比較して川幅が狭く、親水性の高い河川であり、七夕伝説ゆかりの河川でもあります。

そこで、天野川周辺において、天野川と一体となって歩ける空間をつくり、枚方市駅周辺の回遊性を高めます。



歴史街道軸の形成

歴史街道全体（基本構想図内 15 の番号参照）



歴史街道は、街なみ環境整備事業などにより修景整備などが少しずつ進んでいますが、今後も、歴史的景観の整備・保全に取り組むとともに、歩いてにぎわう歴史街道軸の形成を進めます。さらにコミュニティゾーンの形成を図り居住環境の改善を進めます。

枚方市駅周辺（基本構想図内 16 の番号参照）

歴史街道の中でも、枚方市駅周辺は商業環境に非常に恵まれた地域であるにもかかわらず、集客施設が少なく、にぎわいに欠けていますが、仕掛けをすることにより、集客力を向上させる可能性が高い地域です。そこで、歴史街道にふさわしいにぎわいづくりに努めます。



万年寺山・三矢公園周辺（基本構想図内 14 の番号参照）



万年寺山周辺には豊臣秀吉がお茶屋御殿を建て、淀川を眼下に見下ろし、遠く大阪平野から摂津・丹波・山城の山々を一望にしていたと言われていました。また、三矢公園には大名などの宿舎である本陣がありました。そこで、こうした資源を生かして、歴史街道のシンボルとなる集客力のある施設や広場を整備し、万年寺山から三矢公園を経て、ひらかた水辺公園にかけて、楽しく歩ける「みち」づくりを進めます。

ひらかたパーク～枚方公園駅～ひらかた水辺公園（基本構想図内 12,13 の番号参照）

ひらかたパークは、年間約 120 万人が訪れる、大阪府下ではユニバーサルスタジオジャパン（USJ）に続いて 2 番目の集客力を誇る遊園地ですが、ひらかたパークと歴史街道、ひらかた水辺公園との連続性に欠けており、まち全体を回遊する人は少ない状況です。そこで、ひらかたパークと歴史街道・淀川とのつながりの創出につとめます。また、交通機能の充実と安全に歩けるまちづくりを進めるために、枚方公園駅西口駅前広場を整備するとともに、京阪本線の連続立体交差化を目指します。



水面回廊（基本構想図内 9 の番号参照）

水面回廊は、かつて淀川から取水し田畑に水を送っていた用水路ですが、現在は雨水幹線として利用されるとともに、三十石船のミニチュアが浮かぶ親水公園となっています。

そこで、この資源を生かすため、歴史街道とのつながりを深めます。



交通環境の整備（基本構想図内 10 の番号参照）



現在、府道京都守口線などから歴史街道や枚方市駅周辺に通過交通が進入し、安心してゆったりと歩くことができない状況です。そこで、歴史街道や枚方市駅周辺を歩いてゆったりと楽しめるように、府道京都守口線の拡幅整備を促進します。

水辺軸の形成

淀川舟運（基本構想図内 3,8 の番号参照）

阪神大震災の教訓などを活かし、災害時の輸送手段として、舟運の再生を目指すとともに、舟運が持つレクリエーション機能を生かし、観光の発展を図ります。



枚方港（基本構想図内 6,7 の番号参照）

ひらかた水辺公園には、かつて舟運の拠点として栄えていた枚方浜がありました。これを「枚方港」として復活させ、船が係留できる港の整備を国に働きかけ、大阪と京都を結ぶ淀川舟運の拠点を形成するとともに、これを活用し、新たなにぎわいをつくります。

また、高槻と枚方との間を往来していた渡しの再生を研究します。

関西医科大学周辺（基本構想図内 5 の番号参照）



関西医科大学に隣接している多自然池や淀川流域自然園においては、「ふれあい軸」との連携を深める場として、自然を生かした心も体も癒される公園を目指します。

川の自然環境（基本構想図内 2 の番号参照）

本地域に接する淀川・天野川は、都市内に残された貴重な自然で、本地域の都市格を形成する重要な要素です。
そこで、里山保全と連携しながら、環境保全につとめます。



新たなにぎわいの創出（基本構想図内 11 の番号参照）

現在、ひらかた水辺公園は、淀川スタジアム、アクアシアター、多自然池、淀川流域自然園、緊急用船着場などが整備された広大な公園ですが、駅から至近距離にあるにもかかわらず、にぎわいに欠けています。そこで、にぎわいを創出するための施策を進めるとともに規制緩和を国に働きかけていきます。



総合連携事業

歩行者系道路（基本構想図内 18 の番号参照）

本地域の「みち」や公園などにおいて、歩いて楽しむ、多目的な利用等によってにぎわいを創出するために、各種施策を実施するとともに、規制緩和を進めます。

5 . 構想の整備スケジュール

各構想は、現在、事業を実施しているもの、計画しているものから、これから実現策について検討していくものまで多種多様な内容を含んでいますので、整備スケジュールの目標を前期・後期に分類し整理します。(P16 表1 整備プログラム 参照)

整備スパン	スケジュール説明
前 期	既に事業に着手しているか、概ね 10 年後までに着手することを目標とするもの。
後 期	今後検討を行い、概ね 20 年後までに着手することを目標とするもの。

なお、本基本構想は、根幹的な部分での変更は想定していませんが、各構想内容など細部については、時代の流れとともに常に新鮮な状態に保たれるように、必要に応じて見直しを行うものです。

図3 基本構想図

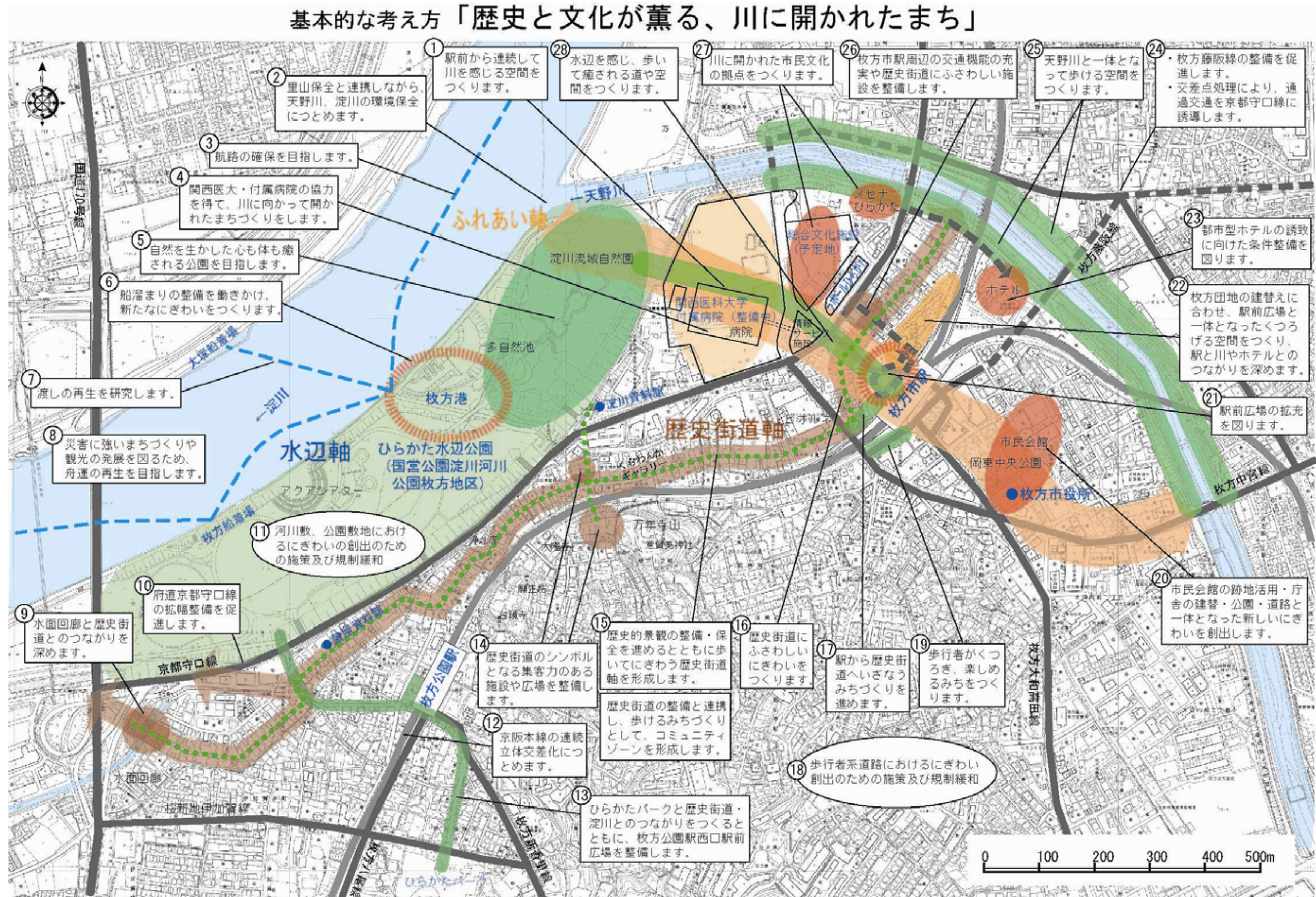


表1 整備プログラム

番号	構 想 内 容	事業主体			事業中: 事業予定:	概ねの整備予定		備 考
		メイン:		関連:		前 期	後 期	
		市	国・府	民間				
1	駅前から連続して川を感じる空間をつくります。							関西医大建設
2	里山保全施策と連携しながら、天野川、淀川環境保全につとめます。							
3	航路の確保を目指します。							
4	関西医大・付属病院の協力を得て、川に向かって開かれたまちづくりをします。							関西医大建設
5	自然を生かした心も体も癒される公園を目指します。							
6	船溜まりの整備を働きかけ、新たなにぎわいをつくります。							
7	渡しの復活を研究します。							
8	災害に強いまちづくりや観光の発展を図るため、舟運の復活を目指します。							
9	水面回廊と歴史街道とのつながりを深めます。							コミュニティゾーン形成事業
10	府道京都守口線の拡幅整備を促進します。							府道京都守口線整備事業
11	河川敷、公園敷地におけるにぎわいの創出のための施策及び規制緩和							
12	京阪本線の連続立体交差化につとめます。							
13	ひらかたパークと歴史街道・淀川とのつながりをつくとともに枚方公園駅西口駅前広場を整備します。							コミュニティゾーン形成事業 枚方公園駅西口駅前広場整備事業
14	歴史街道のシンボルとなる集客力のある施設や広場を整備します。							万年寺山展望広場(御茶屋御殿跡)整備事業 本陣跡周辺整備
15	歴史的景観の整備・保全を進めるとともに歩いてにぎわう歴史街道軸を形成します。 歴史街道の整備と連携し、歩けるまちづくりとして、コミュニティゾーンを形成します。							街なみ環境整備事業 コミュニティゾーン形成事業
16	歴史街道にふさわしいにぎわいをつくります。							
17	駅から歴史街道へいざなうまちづくりを進めます。							案内サイン整備事業
18	歩行者系道路におけるにぎわい創出のための施策及び規制緩和。							
19	歩行者がくつろぎ、楽しめるみちをつくります。							
20	市民会館の跡地活用・庁舎の建替・公園・道路と一体となった新しい賑わいを創出します。							
21	駅前広場の拡充を図ります。							
22	枚方団地の建替えに合わせ、駅前広場と一体となったくつろげる空間づくり、駅と川やホテルとのつながりを深めます。							
23	都市型ホテルの誘致に向けた条件整備を図ります。							
24	枚方藤阪線の整備を促進します。 交差点改良により、通過交通を京都守口線に誘導します。							都市計画道路枚方藤阪線整備事業等
25	天野川と一体となって歩ける空間をつくります。							天野川環境整備事業
26	枚方市駅周辺の交通機能の充実や歴史街道にふさわしい施設を整備します。							
27	川に開かれた市民文化の拠点ををつくります。							
28	水辺を感じ、歩いて癒される道や空間をつくります。							

整備スパン	スケジュール説明
前 期	既に事業に着手しているか、概ね 10 年後までに着手することを目標とするもの。
後 期	今後検討を行い、概ね 20 年後までに着手することを目標とするもの。

〒：573 - 8666

住所：大阪府枚方市大垣内町2丁目1-20

電話番号：072 - (841) 1221 (代表)

FAX：072 - (841) - 3039 (代表)

担当：都市整備部 都市総務課

ホームページアドレス <http://www.city.hirakata.osaka.jp>

アドレス：toshisoumu@city.hirakata.osaka.jp